

# 第50回札幌支部総会

平成27年11月7日 (土) 札幌アスペンホテルに於いて開催予定

## 函西さつぽろ

第12号  
2015年9月1日  
発行数：1500部  
編集長：田澤義公  
事務局：札幌市中央区南1条西11丁目MSビル7F #4F  
浅野法律事務所内

### 何をしていますか？

札幌支部長 浅野 元広 (十八回生)



同窓生の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、つっじヶ丘同窓会札幌支部は、今年が第五十回総会、来年(2016年)が五十年記念総会(第五十一回)にあたります。第一回総会の出席者は145名であり、五十周年記念総会の出席人数はできるだけこの数字に近づきたいと思えますので、同窓生及び関係者の皆様方の特段のご協力をお願い申し上げます。

ところで、この会報(第十二号)に「札幌支部設立の昭和四十一年つ...」という記事が掲載

されています。「ピートルズ来日」「タートルネットワーク」等々、私の世代にはとても懐かしい言葉が並んでいます。最後に「このころ、皆さんは何をしていましたか？」と呼びかけていますので、多少の応答をすることとしましょう。

昭和四十一年当時、私は高校2年生で社会問題研究会(略称「社研」)というサークルに所属していました。翌四十二年の秋に函館西高で防衛大の秋に入学説明会が開かれたのですが、このとき、社研等を中心に説明会開催に対する抗議活動が起き、また、これを切っ掛けとして学校側との紛争が生じました。

我々の世代は親達等から戦争の話を聞かされて

育っており、また、この頃、ベトナム戦争の真っ只中で、マスコミで戦争の生々しいシーンが報道されていました。戦争の記憶が伝承され、また、新たな戦争が現に目の前にあったのです。そして、街頭では学生や労組によるデモや集会があり、憲法9条も今よりはるかに輝いていました。社研でも憲法9条の勉強をした記憶があります。当時の高校生には、「戦争」があり、「反戦運動」があり、「戦争の放棄」もあったのです。それが防衛大の入学説明会に対する抗議活動を生んだのだと思います。

あれから約五十年が経ちました。

ベトナム戦争後も、イラク戦争等、米国を中心とする「戦争」は絶えることなく続いています。人の生命、身体の損傷等の生々しい場面がテレビ像からは伝わらなくなっているように思います。

街頭でも昔のようなデモや集会があまり目につきません。菅官房長官や谷垣自民党幹事長が、6

0年安保、70年安保の記憶と重ねながら、安保法制に対する反対運動は大したことはないという趣旨の発言をしているほどです。

「戦争の放棄」は今や風前の灯です。いわゆる「専守防衛」の場面以外では武力行使できない自衛隊を、集団的自衛行動(武力攻撃事態法)、後方支援助活動(重要影響事態法、国際平和支援助法)、かけつけ警護、治安維持活動(PKO協力法)等の場面で武力行使や武器使用ができる「真正の軍隊」に変えようとしているわけです。武力行使できる場面は限定されているというのが政府の説明ですが、一旦、武力行使(つまり、殺し、殺され)に道を開いたら、事の性質上、エスカレートして行かざるを得ないでしょう。

約五十年前の高校生の「戦争」、「反戦運動」、「戦争の放棄」はどこに行っただけという事になりそうですが、高校生を含むSEALDs(自由と民主主義のための学生緊急行動)の活動を見

ていると、今の若者達にも「戦争」、「反戦運動」、「戦争の放棄」が承継されて、それに加えて民主主義、自由主義、個人主義が昔より強く息づいています。この50年間は無駄ではなかったのだと思います。

五十年前、何をしましたかという問いかけに発して、思わぬ方向に話がいつてしまったようです。こんなことを書いてる内に、同窓生諸氏に、「皆さんは何をいたしましたか？」と問いかけ、その思い出と現在とを語って頂くのも一興かもしれないと思ひ至りました。スポーツ、芸術、恋愛等多岐にわたるでしょう。

ちなみに、「皆さんは何をいたしましたか？」と問いかける文章を書いたのは、我が札幌支部を支える事務局長の菩提寺氏です。

p.s. 現在(八月十日)、安保法制は参議院で審議中ですが、果たして法案が通っているでしょうか。廃案になっていることを願うばかりです。

「合縁奇縁」

十六回生

對馬 良司

我が家が居住し始めたころのこの地区は比較的若い世代が多く住んでいて公園も小中学校も商店も近く活気あふれる住宅街であった。

近頃は例に洩れなく高齢化がすすんでいたが、四年前に左隣に若夫婦が引越してきた。三歳の男の子がいた。その翌年に女の子が誕生した。

(1)隣家の天使

おっぱい臭いにおいをさせて我が家に遊びに来るようになったのは一歳くらい(女の子)の頃からだ。育児の悩みや不安なことへの相談相手に「母ちゃん」に抱かれてやってくる妻と母ちゃんと話している間、私はほぼ独占状態で女の子と遊んでいた。

二歳になり歩けるようになってからも言葉はまだ意味不明であるが「ふん、ふん」とか言いながら命令されるままに指さす方に行く満足したような顔になる。

昨夏、「トンボトンボ」

と言うので「じゃトンボを取りに行こう」「うん！」喜色満面の顔で玄関にあるタモを持ち虫かごを肩から背負って「おじしゃん行こう」と川べりの広場まで。「リイノ出来るかな」とちよつぱり不安げ。「大丈夫、おじしゃんが教えてあげるからね。ここを持ってそつと近づいて横にスーつとやるんだよ」「リイノやってみる。こゝお？」「そうだよ。一回で良く覚えたね」「うん！」その後二、三回「こゝお？」を練習してから沢山のトンボを採っては虫かごへ。母ちゃんに見せる」と家まで帰って、「トンボさん苦しいって言ってるから逃がしてあげる」。まだオムツも取れていないのに何とも愛くるしい真顔で言うのである。「おじしゃん汗をかいたから風呂に入るわ」と言ったら「リイノも入る」とさつさと服を脱ぎ始めたのには家内もびっくり！母ちゃんも少し慌て気味

で「リイノ本当におじさんと入るの？」。これに本人は平然として「入るの！オモチャ持ってきて！」。お湯の温度や頭の洗い方を教えてもらいいざ入浴タイム。小っちゃい背中を見せながら水遊び、浴槽では「いち、ご、はち、に、さん・・・」本人が数を数えているつもりでいる。この頃は何でも自分でやりたがるのも特徴だ。チラシを持ってきては糊付け、はさみ切り、ホッチキス、穴あけからココアの湯のそそぎ等々「リイノがやる」何とも頼もしい天使である。「いつもリイノが遊んでもらってスママセン」と隣家の母ちゃんと父ちゃん。「いえ良いんですよ。我が家も天使に癒されていますから」と私たちが最近になってようやく、背伸びして我が家のチャイムに届くようになって「ピンポーン」「はいどち様」とわたし、「リイノだよ」と元気な声で応じる。それまでは裏庭のテラスに廻ってガラス越しにおじしゃんと言ってくるのだ。お蔭でこの

冬は自宅裏のテラスまで雪かきをし通路を確保しておく作業もあったのだ。(例年はやらない)我が家が不在の時は、小ぢやかな足跡を残して帰って行った様子が見られちよつぱり切ない気持ちにもなった。「孫は来てよし、帰ってよし」とはよく言うが孫ではなくてもこれほど懐かれると二、三日姿を見ないと風邪でも引いたかちよつぱり心配になるのは親心であろうか。朝目覚めたとき、今日は遊びに来てくれるかなと少しばかり期待している自分である。

(2)コミュニケーションサークル「一木会」

ある企業の社長に「紳士&淑女」の会に誘われた。詳細について聞いても何とも要領を得ない。とにかく参加して継続するかどうかは自分で判断してくれとの事であった。一九年前の話だ。当時は企業の役員や官公庁の幹部クラス、自営業者の他に家庭の主婦やOLの方もいる。圧倒される面々の中で自分の居場所があるかと迷う部分もあった。この会の特徴は定員六〇

名で男女の比率が半々で運営されており、しかも三ヶ所のホテル持ち回りで毎月第一木曜日(一木会)に開催されているということだ。各月の幹事は男女一組が交替で行い、時には趣向を凝らしたゲームやクイズで場の盛り上げに一役かっている。その「一木会」が今年十二月に二〇周年を迎えることになった。勿論、この間に会員のメンバーの入れ替わりもあり平均年齢もズンと高くなったものの皆元気に参加している。

会の趣旨としては一つには会の中で営業活動はしないこと、二つめは紳士淑女を自覚した行動をすること、三つめはコミュニケーションを楽しむこととして、今では食事と会話を満喫してストレス発散に役立つている。この間、毎年一泊の旅行会も行っていたがさすがに高齢になってきたこともあってこれは行われなくなつたがそれでも毎年十二月には恒例の仮装パーティーを行っている。テーマを決めてそれぞれが思い思いに仮装していく、思いつかない人は会で用意したもので仮装するから心配ない。いよいよ余興のスタートだ。寸劇あり、カラオケあり、ダンスありのそれはそれは賑やかなパーティーとなつてまさに年忘れパーティーとなるのである。今年十二月の二〇周年記念にはどんな企画にするか今から検討しているところである。八年ほど前からこの会の事務局長を引き受けているが未だにこの会が何故二〇年も継続しているのか良く理解できていない。しかも毎月開催であるから好い加減飽きてきても不思議ではないのに。家に閉じこもっていること、ストレス解消と人恋しさがそうされているのかもしれない。企業人を定年となつて自由人となり、時間はたっぷりとあるが、逆にじつくりと人と話す機会が大幅に少なくなるという現実がある。そんな時、会話をすることの大切さを感じるものがよくある。新聞・雑誌や本を読んでいるからといって、いざ何事かを言葉で表現し

ようとすると適切な言葉が口から出てこないという経験はないだろうか？  
 ここは勇気を奮って「一本会」のようなグループに参加してみても如何でしょうか？

参考までに、札幌市にNPO法人「札幌シニアネット」が、小樽には「小樽後志シニアネット」というのがあります。これらも是非に参考になさり、趣味を通じて仲間づくりを楽しみながら健康で充実した毎日を通してみたいと思います。

年に一度、「つっじヶ丘同窓会札幌支部」の例会も開催されております。今年は一月初旬を予定しています。  
 こちらにも是非ともご出席し懐かしい面々とコミュニケーションをお楽しみ下さい。  
**(3)一年が短く感じるんだな**

皆さんも良く口にしますよね！「一年一年が早くて...」とね。  
 これにはちゃんとして理論があるらしいですよ！  
 (アインシュタインの相対性理論?)  
 ちよつと解説すると一

年三六五日の総時間というのは八七六〇時間、これは誰でも均等に持つている時間だ。これを自分の年齢で割り算する。例えば一〇歳で割ると答えは八七六となる。六〇歳で割ると一四六となる。このように高齢になるほどどんどん数字(時間)が小さくなるので年を取るほどに一年が早く感じるといのである。  
 言われてみればなるほどと領けないこともない。

誰でも均等に歳を重ねていくが残された時間の活用次第で精神的な若さに差が出てきます。  
 ちよつと一歩を踏み出して自分の殻を捨て新たなことにチャレンジしてはどうでしょうか？  
 「つっじヶ丘同窓会でお会いしましょう！」



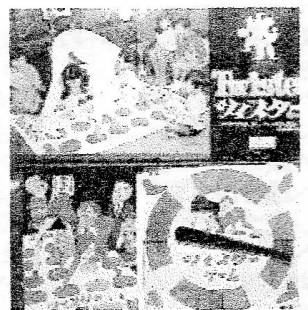
札幌支部設立の昭和四十一年つて...

札幌支部は、1965(昭和40)年12月、本校から再建を依頼され、同41年6月19日に第1回総会を開催している。昭和四十一年とは...

【出来事】日本の総人口が1億突破。ビートルズ来日。日本テレビ『笑点』放送開始。国立劇場開場。



【流行・ファッション】原宿族。モッズルック。タートル・ルック。ミリタリー・ルック。  
 【新商品・ヒット商品】日産サニー(写真)。トヨタカローラ。ママレモン(ライオン)。ツイスタゲーム(任天堂)。  
 【新食品・ヒット食品】サッポロ一番。明星チャルメラ。グリコポッキー。



図書館を「存知ですか」

「朝日新聞デジタル」五月十九日版の「うちら文化部」で函館西高・図書館が取り上げられた。西高には大正期や昭和初期の本を含む約2万冊の蔵書があり、うち七千冊をデータベース化したという。貸し出し業務終了後に、パソコンを使って題名や著者名などを登録する作業をする他に、古くなつて読めなくなつたり、ほとんど読まれなかつたりする本を整理するのも活動の一つで、現在は約2千冊を廃棄処分中。2年生2人、1年生2人の計4人の部員は春休みも登校して作業。「地味な作業が多く、脚光が当たる機会が少ない裏方だけど、楽しみながら進んで活動してくれている」と顧問の小牧陽二郎先生のコメントも紹介されている。本が好きで、月に20冊読むという1年生の新谷光彬君は函館西高のホームページで図書館の活動を知り、「読むだけでなく、こういう活動をするのも面白そう」

と思ったという。本の楽しさを知ってもらう取り組みも大事な活動の一つで、2・3カ月ごとにテーマを決めて、お薦めの本を集める「特集コーナー」を図書室内に開設したり、おおむね2カ月ごとに図書室だより「アゼリア」を発行。アゼリアには、部員が本を紹介するコーナーも設けている。活動の甲斐もあり図書室を利用する人は昨年に比べて順調に増えているという。



局長を務める2年生の金沢健太君の「1冊の本に出会って、人生が一変した人も少なくないと思う。1冊でも多くの本を読んでもほしいんです」とのコメントで締めくくられてる。  
 頼もしい限りです。

# 同窓生のお店紹介

函館西高校卒業の皆様、  
こんにちは！  
西高17回生、同期が頑張っております。お店を紹介いたします。

## 中華料理 西園

市電末広電停前に店があり、向かいには北島三郎記念館、写真「西園」隣の建物は「函館博物館郷土資料館」です。近くには「元町公園」「BAY函館」など観光スポット、史跡など沢山あります。西部方面散策の途中、お腹が空いた時、また休憩などで「西園」にお立ち寄りください。

店主釜谷敏雄さん（2組）と奥様京子さん（旧姓三崎4組）ご夫婦で店



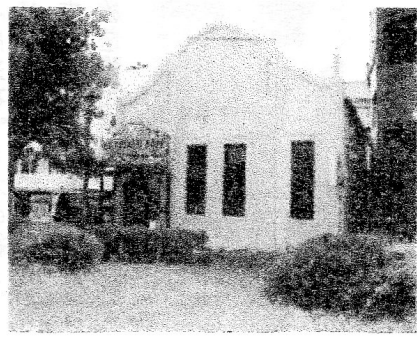
を切り盛りしています。お二人とも17期同期生で「西園」は17期同期生が集まる場所となっております。中華料理店ですが17期同期生お勧めメニューは「ネギ塩ラーメン」「野菜ラーメン」です。一度食べてください。期待を裏切らないと思えます。ゆつくりしたい方、釜谷夫妻と話をしたい方は昼時間外した方が良いでしょう。

函館市末広町19番14号（日曜定休）十一時半から十九時

## カリフォルニアベイ

函館西高17期同期生のお店2番目は「カリフォルニアベイ」です。大正時代建造の郵便局を改装した外観、店内は何かしら気持ちいホットさせる雰囲気を感じさせます。また青春時代(?)に時々行った店なので懐かしさが余計感じられるお店です。店の前は「BAY函館」左隣は「ラッキーピエロ」など函館観光一番のスポット

トに位置しております。店の裏には学生の利用が多い系列の「オリエンタルキッチン」が有ります。つづじヶ丘同窓会の二次会を行い、旧交を温めたこともありませす。この二店は4組柴田修平さんが経営しております。観光、散策の一休みに利用してはいかがでしょう。函館市末広町22番23号（無休）十一時～午前一時（L・O・十二時）



\*十七回生の代表幹事をされていた浦袖進さん（故人）が当時、札幌支部のホームページに投稿いただいた内容を転記いたしました（掲載内容は当時のものです）。浦袖さんには大変お世話になりました。

（事務局）

## 同窓会に参加して、

前号で浅野支部長が述べられていた通り、同窓会で多くの新しい出会いがあり、大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

浅野支部長はじめ現在の役員の方々はもちろん、前事務局局長の井上忠純さんにはご自宅まで押しかけご指導頂きました。中川誠さん、白畑力さん、加藤聖子さん、齋藤征康さんほか六回生の皆さんには初参加の時から可愛がって頂きました。八回生の田中正身さんのご自宅にも伺ったこととがあります。高女三八回生の馬嶋元子さんには何度も会報に寄稿頂きました。五回生の伊藤祐輔さんとは会報作成について江別で何度か打合せ。前支部長の林寿正さんと支部運営について熱く語りました。前会長の本間麟太郎さん、中山浩一現会長、小林敏夫さん、毛利悦子さん、若山央さん、藤井康雄先生ほか本部の皆さんには何かとお力添えを頂きました。

新谷義克さん、高橋順吉さん、齋藤勝美さん、竹澤秀明さん、堀内洋子さん、佐々木太郎さん、山越准司さんほか東京支部の皆さん、関西支部の富士昭一さんには支部運営・会報作成など常に刺激を頂きました。

同期の強い絆を示して頂いた珊瑚会（十回生）久保勝也さん、長谷部和夫さんにもお世話になりました。そしてまた、昨年大変失礼をしてしまいました小原孝男先生には毎年同窓会にご出席いただいたっております。

二十一回生の石川則夫さん、二十四回生の室田浩三さん、五十嵐陽子さん、三十四回生の木村公一さん、不京真一さん、トランペッター長畑葉子さん、歓迎会に参加の六十一回生・六十二回生、そして野球観戦に参加の十六回生の豊蔵和恵さん、十九回生の黒澤晴一さん、横山裕治さん、有難うございました。

浦袖進さんには貴重な資料など提供頂きました。誌面に限り有り、すべての方を載せられません。卒業後二十年以上経て出会った同窓の皆様は心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

菩提寺 孝幸  
（三十三回生）

【編集後記】  
今回も無事発行できました。と、言ってもほとんど事務局局長の菩提寺さんのご努力によるものです。

今回もまた、寄稿依頼にあまり協力を得られず、難儀しました。こうしたなかで、對馬さんから快いご返事をいただき、素敵な玉稿を御寄せいただきました。ありがとうございます。

なお、編集の業務を「三年間だけ……」との条件で総会のおりに語り、受諾されました。もう、四年になりましたので、今号をもちまして編集の任を辞退したいと思っております。いままでの皆様のご協力に感謝申し上げます。

（田澤 義公）